

## 2018 年度特定共同研究申請書

1.応募領域 (丸を付けてください) 古代史料領域 中世史料領域 近世史料領域 海外史料領域 ○複合史料領域
2.申請課題名 戦国合戦図の総合的研究
3 新規・継続の別 (丸を付けてください) 新規 ○継続
4.申請者 画像史料解析センター・准教授・黒嶋敏
5.所内共同研究者 藤原重雄 (古代史料部門・准教授) / 金子拓 (中世史料部門・准教授)・須田牧子・畑山周平・(中世史料部門・助教) / 及川亘 (画像史料解析センター・准教授) / 林晃弘 (近世史料部門・助教) / 村岡ゆかり (史料保存技術室・技術専門員)
6.希望する研究期間 2016 年度～ 2018 年度 ( 3 年間)
7.課題の概要(400 字程度) (この項は広報等に利用・掲載することがあります) 中近世武家社会において作成されたさまざまな「合戦図」について、屏風絵あるいは合戦地図、そのほか主として武家文書群などに含まれるいくさにかかわる画像史料を広く収集・検討し、それぞれの描かれ方や諸本の系統、そこに描かれた内容などを研究する。それぞれの「合戦図」の典拠となる情報(軍記・家伝など)を追究し、これらがいかなる理由で作成されたのか、(近世) 武家社会における「戦国合戦」に対する歴史認識、また武家社会においてこれら「合戦図」が作成された歴史的意義について明らかにする。またたとえば屏風絵(合戦図屏風)や合戦地図を比較検討することにより、これらが相互に関係していたのかどうかなど、個々のジャンルの「合戦図」の史料的性格を可能なかぎり明らかにする。
8.研究の目的(400 字程度) 中近世武家社会において、さまざまな「合戦図」(合戦図屏風・合戦地図・布陣図など)が作成された。これらは、そこに描かれたいくさについての歴史的事実を直接明らかにする、いわゆる「一次史料」ではない。しかしながらこれら「合戦図」は、特定のいくさについて、後世の人々がどのように考えてきたのかといった歴史認識や、どのような情報によってそのいくさを知ろうとしていたのかといった情報収集の問題、またこれらがその時代のいかなる要請によって作成されたのかといった社会思想の問題など、さまざまな角度からの検討が可能である史料群と言ってよい。 2010～2015 年度の特定共同研究・複合史料領域において、「関連史料の収集による長篠合戦の立体的復元」を課題とし、長篠合戦に関わる文献史料・絵画史料の調査研究を進めた。ここでは主として長篠合戦図屏風の熟覧をおこなってきた。また可能なかぎりの合戦図についても熟覧をおこない、とりわけ長篠合戦図屏風については、各本相互の系統や成立について、参加する共同研究員のなかである程度の知識の共有がなされ、こ

<p>うしたテーマを共同研究として進めることの有効性を確認した。</p> <p>本研究ではこの視点を継承し、長篠合戦図屏風を含む合戦図屏風制作の問題を継続して研究するいっぽうで、あらたに「合戦地図」「布陣図」のような絵図にも研究対象を広げ、その史料的性格を明らかにして、画像史料の一ジャンルとして「合戦図」を位置づけたい。</p>
<p>9.共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400字程度)</p> <p>「合戦図」の研究は、合戦図屏風に関心のある文献史学の研究者、および絵画史料の歴史研究者はもとより、中世・近世各時代の研究者、また軍記・兵学といった国文学・思想史研究者が垣根を越えて取り組む必要がある。また、史料編纂所にはこれまで模本のかたちで収集・制作したり、内務省引継地図として移管された多くの「合戦図」が所蔵とされているが、かならずしも十分に研究活用がなされているとは言いがたい。以上のようなことから、本研究は史料編纂所の共同利用・共同研究として進める意義がある。各時代・分野の研究者が参加することにより、合戦図屏風の研究はもちろんのこと、これまで史料としての位置づけが定まっておらず、たんにくさの様子を表す絵図としてしか用いられてこなかった「合戦地図」「布陣図」についても、史料的性格が明らかになり、(画像)史料のあらたな一ジャンルとして位置づけられることが期待される。</p>
<p>10.研究の実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会の開催</li> </ul> <p>最終年度にあたるため、しかるべき段階において、三年間の研究成果の公開と情報の共有化を目的とした公開研究会を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本所所蔵関係合戦図の調査と研究資源化</li> </ul> <p>2017年度以降、史料編纂所が所蔵する模本・内務省引継地図のなかから合戦図をリストアップし、内容を検討している。2018年度もこれらを継続するとともに、公開すべきものを選定し、写真室に依頼して撮影し、データベース(所蔵史料目録)から公開することを目標にする。</p> <p>また全国の所蔵機関のなかで合戦図を多く所蔵する機関に調査に赴き、これを収集・検討する。2017年度までは、東北大学附属図書館狩野文庫ほかに赴いたが、継続して調査をおこなうべきか、ほかにも調査を加えるべきかという点については、2017年度の研究進行状況を見て判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係文献史料の調査</li> </ul> <p>合戦図に関連する文献史料について、所蔵機関に赴きこれを収集・検討する。調査先については2017年度の研究進行状況を見て判断する。</p>
<p>11. 研究成果の公開計画</p> <p>可能なかぎり史料編纂所所蔵の「合戦図」を撮影し、これらをデータベースを介して公開する。また共同研究員各自がそれぞれの関心から「合戦図」の研究を進め、論文集のようなかたちでまとめる。</p>
<p>12. 共同研究員にもとめる役割</p> <p>日本史学(中世および近世)、絵画史学、思想史学、国文学など多様な分野の研究者の参加を求め、各段階において実施する調査に参加し、「合戦図」の史料的性格を考える。</p>